

7 芸術

あなたにとっての芸術とは？

好きな（影響を受けた）作家（作曲家、画家、書家等）は誰ですか？

心を揺さぶられた作品（芸術的体験）はどのようなものですか？

生徒にとって芸術科の先生は、最も身近な芸術家であるとともに、味わい方の伝道者でもあると思います。日常的に、芸術を愛好し芸術文化を尊重している先生の姿から、生徒たちは何かを感じています。

生徒には、どのような姿に育ってほしいですか？

A さん：「ここに『f』と書いてあります。『フォルテは強く』だからここは強く演奏します。」

B さん：「何か書いてあると、いつも雰囲気が変わるなあ。この意味は何だろう？どのような音色、大きさ、形になるように歌おうか...」

☆高等学校学習指導要領

芸術科の目標

「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」

☆高等学校芸術科の「見方・考え方」

平成28年12月に中央教育審議会がまとめた「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)」では、高等学校芸術科における「見方・考え方」を次のように示しています。

音楽

感性を働かせ、音や音楽、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。

美術・工芸

感性や美的感覚、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、新しい意味や価値をつくりだすこと。

書道

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと。

芸術科が大切にしたいこと

高等学校芸術科は、芸術への永続的な愛好心を育み、感性を高め、豊かな情操を養う教科であり、一人ひとりがそれぞれの興味・関心や個性をいかして、芸術と幅広く、かつ、多様な観点から主体的に関わっていくことが重要です。

芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、学校を卒業した後も、社会とのつながりの中で芸術を愛好し、生涯にわたり豊かな情操を持ち、芸術文化を尊重する態度の育成を目指していくことが大切です。

「見方・考え方」と「感性」

芸術科における「見方・考え方」の重要な点は、知性と感性を相互に働かせて対象や事象を捉えることです。

知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくことが、他教科等以上に芸術科が担っている学びです。また、多様性の包容、柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくことなども含まれており、そこにも、芸術を学ぶ意義や必要性があります。

また、特に重要な「感性」の働きは、感じるという受動的な面だけではありません。感じ取って自己を形成していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きです。また、「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものです。

芸術科が、子どもたちの創造性を育む上でも大切な役割を担っています。

〈題材名〉 心の形（石彫）

〈題材の目標〉

「心の形」というテーマを基に、自己の内面を深く見つめ、主題を生成し、造形的な効果をいかし創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

【**関心・意欲・態度**】 **主体的に学習に取り組む態度**

テーマを基に、自己の内面を見つめて、主体的に表現活動や鑑賞の創造活動に取り組めるよう、授業の導入や展開を工夫しましょう。

【**発想や構想の能力**】 **思考力・判断力・表現力**

アイデアスケッチや言葉により、思いや考えを整理させ、**自分が表したい主題を生成**させることが重要です。また、石の特性の理解、単純化や強調など、主題を表現するための構想を練るよう、指導しましょう。

【**創造的な技能**】 **知識及び技能**

「心のこもっていない、何を表現したいのかわからない作品」には感動が伴いません。**自分が表したいイメージを具現化**させるために、本当にこの形で良いのかと**主題を追求**させましょう。

【**鑑賞の能力**】 **思考力・判断力・表現力** **知識及び技能**

鑑賞も創造活動です。自分としての意味や価値をつくりだすよう指導しましょう。また、**根拠を持って互いに批評し合う活動**を通して、自他の特性や個性について理解を深めるさせるよう配慮しましょう。



自分が表したい主題を明確にもち、イメージを具現化することを重視して表現します。また、他者から承認される鑑賞の活動を行うことにより、自己肯定感を高めます。

表現と鑑賞の活動を通して、美しいものやより良いものを求めていこうとする豊かな情操を養います。

※「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

主体的な学び：

形や色彩などの造形の要素の働きなどに意識を向けて考えることや、対象や事象を造形的な視点で深く捉えることが必要です。また、自己の生成した主題や対象の見方や感じ方を大切にして、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習の充実を図り、それらの学習活動を自ら振り返り次の学びにつなげていくことが重要です。

対話的な学び：

表現や鑑賞の能力を育成する観点から、「造形的な見方・考え方」を働かせて、美術の創造活動の中で、形や色彩などの造形の要素の働きなどについて理解し、美術作品や互いの作品について批評し合い討論する機会を設け、自他の見方や感じ方の相違などを理解し、自分の見方や感じ方を広げるなどの言語活動を一層充実させることが重要です。

深い学び：

中学校美術科における学習を基礎にして、「造形的な見方・考え方」を働かせて、表現・鑑賞の能力を相互に関連して働くようにすることが大切です。また、お互いの見方や感じ方、考えなどを交流することで、新しい見方や価値などに気付き、表現や鑑賞の能力を深めていくような学習により、育成する資質・能力を確実に身に付け、それらを積み重ねていくことが重要です。